

# シラバス

---

## 第1学年

SYLLABUS 2022

福井県立 金津高等学校  
Kanazu High School

## 第1学年 目次

【教科】	【科目】	【対象クラス】	ページ
国語	現代の国語	全	…… 3
	言語文化	全	…… 5
地理歴史	歴史総合	全	…… 7
数学	数学Ⅰ・A・Ⅱ	全	…… 9
理科	物理基礎	全	…… 11
	生物基礎	全	…… 13
体育	体育	全	…… 15
	保健	全	…… 17
芸術	音楽Ⅰ	全	…… 20
	美術Ⅰ	全	…… 22
	書道Ⅰ	全	…… 25
英語	英語コミュニケーションⅠ	全	…… 26
	英語コミュニケーションⅡ	全	…… 28
	論理・表現Ⅰ	全	…… 30
家庭	家庭基礎	全	…… 33
総合的な探究の時間	I P T	全	…… 35

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
国語	現代の国語	1年	普通科	2

## 1. 学習の目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2. 教科書

- ・「現代の国語」(数研出版)

## 3. 副教材等

- ・「プレミアムカラー国語便覧」(数研出版)    ・「字義で覚える常用漢字」(浜島書店)

## 4. 授業の進め方

- ①教科書を正確かつ丁寧に読解していくことを中心とするが、適宜、教師からの発問に答えたり自分の考えを文章にまとめたりする発展学習を行うことで、自らの考えを表現する能力を身につけていく。
- ②年度当初は語彙力などの基礎が定着しているかどうかを確認しつつ授業を進める。その後は、質・量ともに手応えのある文章をその構造を意識しながら読み進めることで、主題を的確につかむ読解力を身につけていく。

## 5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ①国語辞典を活用し、家庭でも学校でも分からない語句を調べて確認する。この努力が後々、読解力の向上にじわりと効いてくる。
- ②授業中は板書をノートに写すだけではなく、教師の発言で重要だと思った事柄などもノートに書き込む。分かりやすく丁寧なノートを取ることで単元の理解が深まり、試験勉強も充実したものとなる。
- ③論理的文章の授業に予習は不要と考えている生徒が多いが、実際は事前に辞書を引いて語句の意味を調べる、あるいは本文を通読して疑問点を明らかにしておく作業が不可欠である。この作業を怠ると授業の内容を理解するのが困難となるだけではなく、読解力も伸びてゆかない。
- ④読解に必要な語彙力を身につけるために必要に応じて小テストを行うので、しっかりと学習した上でテストに臨むこと。また、間違えたものはその都度正しい意味や漢字を辞書で確かめるなどして確認すること。

## 6. 評価方法・考査・テスト・課題等

中間・期末考査の成績、小テストの成績、提出物の実施および提出状況、ノートの内容、そして主体的・意欲的に授業に参加しているかどうかなどの態度を総合的に評価する。

## 7. その他の留意点

国語の力を向上させるためには、授業だけではなく、読書が不可欠である。できる限り、多くの文章を読み、活字にふれるようにすること。

# 現代の国語 年間学習計画表

科目	言語文化	単位数	2単位	学年等	1年	担当者	
教科書	「現代の国語」(数研出版)			副教材等	プレミアムカラー国語便覧(数研出版) 字義で覚える常用漢字(浜島書店)		
目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
<b>評価の観点</b>							
知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。			「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や協働して学びを共有しながら伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばを通して言語文化に関心をもち主体的に関わろうとしている。	
月	考査	学習項目(単元)	学習内容および目標	評価の観点			評価方法
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	4 中間	表現にこめられた筆者の意図を説明しよう 評論「コミュニケーション能力とは何か」	【知】 比喻、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。 【思】 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	4 中間	評論文の構成を理解した上で、自分の意見を述べよう 評論「水の東西」	【知】 個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。 【思】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	5 中間	目的に合わせて表現を工夫しよう 実用の文章1	【知】 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。 【主】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	6 期末	評論文の内容に関連した具体例を挙げよう 評論「ものとことば」	【知】 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解することができる。 【思】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	7 期末	ことばの背景にある文化の違いについて、自分の意見を述べよう ことばの働き/ズームアップ どこにも嫌なとない言葉論入門	【知】 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めることができる。 【思】 自分の考えが明確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
2 学期	9 中間	同じテーマの文章を読み、自分の意見を述べよう 評論「時間と自由の関係について」	【知】 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めることができる。 【思】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	10 中間	資料を分析して考えをまとめる 実用の文章2	【知】 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。 【思】 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	11 期末	自分の意見を、構成を工夫してまとめよう 対比する 評論「デジタルメディア時代の複製」	【知】 主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。 【思】 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
3 学期	1 期末	論理展開を捉えた上で文章中の表現について説明しよう 評論「他者を理解すること」	【知】 主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。 【思】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	2 学年末	コミュニケーションの手段を考えよう 実用の文章4	【知】 個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。 【思】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	2 学年末	文章中の表現の具体例を探し、内容をまとめよう 評論「動的平衡の回復」	【知】 個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。 【思】 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	3 学年末	文章の構成を工夫して提案しよう 実用の文章5	【知】 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や言葉の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
国語	言語文化	1年	普通科	3

## 1. 学習の目標

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2. 教科書

- ・「言語文化」（数研出版）

## 3. 副教材等

- ・「完全マスター古典文法」（第一学習社）
- ・「古典文法ワークノート」（第一学習社）
- ・「プレミアムカラー国語便覧」（数研出版）
- ・「例文による漢文の習得」（浜島書店）
- ・「字義で覚える常用漢字」（浜島書店）

## 4. 授業の進め方

- ①教科書を正確かつ丁寧に読解していくことを中心とするが、適宜、教師からの発問に答え自分の考えを文章にまとめる発展学習を行うことで、自らの考えを表現する能力を身につけていく。
- ②年度当初は語彙力などの基礎が定着しているかどうかを確認しつつ授業を進める。その後は、質・量ともに手応えのある文章をその構造を意識しながら読み進めることで、主題を的確につかむ読解力を身につけていく。

## 5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ①国語辞典を活用し、家庭でも学校でも分からない語句を調べて確認する。この努力が後々、読解力の向上にじわりと効いてくる。
- ②板書をノートに写すだけでなく、教師の発言で重要だと思った事柄などもノートに書き込む。分かりやすく丁寧なノートを取ることで単元の理解が深まり、試験勉強も充実したものとなる。
- ③小説を取り扱った授業に予習は不要と考えている生徒が多いが、実際は事前に辞書を引いて語句の意味を調べる、あるいは本文を通読して疑問点を明らかにしておく作業が不可欠である。この作業を怠ると授業の内容を理解するのが困難となるだけでなく、読解力も伸びてゆかない。
- ④読解に必要な語彙力を身につけるために必要に応じて小テストを行うので、しっかりと学習した上でテストに臨むこと。また、間違えたものはその都度正しい意味や漢字を辞書で確かめるなどして確認すること。

## 6. 評価方法・考査・テスト・課題等

中間・期末考査の成績、小テストの成績、提出物の実施および提出状況、ノートの内容、そして主体的・意欲的に授業に参加しているかどうかなどの態度を総合的に評価する。

## 7. その他の留意点

国語の力を向上させるためには、授業だけではなく、読書が不可欠である。できる限り、多くの文章を読み、活字にふれるようにすること。

# 言語文化 年間学習計画表

科目	言語文化	単位数	3単位	学年等	1年	担当者	
教科書	「言語文化」(数研出版)			副教材等	プレミアムカラー国語便覧(数研出版) 完全マスター古典文法、古典文法ワークノート(第一学習社) 字義で覚える常用漢字(浜島書店) 例文による漢文の習得(浜島書店)		
目標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、「我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
<b>評価の観点</b>							
知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。			「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や協働して学びを共有しながら伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばを通して言語文化に関心をもち主体的に関わろうとしている。	
月	考査	学習項目(単元)	学習内容および目標	評価の観点			評価方法
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	4 中間	説話が伝承された理由について話し合うこととて、古文に親しもう 『宇治拾遺物語』「児のそら寝」 『絵物語良秀』	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できる。 【思】「読むこと」において、作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈できる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	5 中間	漢文訓読の決まりを学び、漢文由来の言葉をグループでまとめて発表しよう 漢文「入門一、二」	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解できる。 【思】「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のもの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つことができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	5 6 中間	小説を深く読み味わい、人間の生き方について考えてみよう 小説『羅生門』(芥川龍之介)	【知】文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解できる。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	6 期末	登場人物の行動分析を活かして、「自分流随筆」につなげよう 『徒然草』「神無月のころ」 「ある人弓射る」「丹波に出雲」	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できる。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	7 期末	故事成語の用例を調べて、グループでまとめて発表しよう。 『漁父之利』「狐借虎威」朝三暮四	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
2 学期	9 中間	登場人物の心情を読み取り、その行動について話し合おう 『伊勢物語』「芥川」「筒井筒」「東下り」	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	1 0 中間	登場人物の心情の変化から、人と人との交流の大切さについて考えよう 小説『サラバ!』	【知】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思】作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	1 0 中間	漢文の史伝を読み、弁舌の巧みにふれよう 『先儒魂始』「鶏口牛後」	【知】古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を解釈することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	1 0 中間	印象に残った短歌の鑑賞文を書き、語感と語彙を豊かにしよう。 短歌(正岡子規、与謝野晶子、石川啄木、若山牧水、俵万智ら)	【知】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	1 1 期末	日記文学を読み、当時の時代状況や作品ができた背景を考えて、結びの一文に込めた意図を読み取ろう。 『土佐日記』「門出」「帰京」	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	1 1 期末	寓話に込められた作者の考えを読み取ろう 「雑説」	【知】古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を解釈することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	1 2 期末	中国の思想家の考えに触れ、自分の意見を持つ 「論語」「孟子」	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を解釈を深めることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	1 2 期末	唐代の歴史的背景を踏まえながら、寓話に込められた作者の考えを読み取ろう。 「雑説」	【知】古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を解釈を深めることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
3 学期	学 1 1 末	細かな文章表現から内容を読み取り、その作品展開の効果について考えてみよう。 小説『山月記』	【知】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	学 2 1 末	敬語表現の決まりに留意して、登場人物の言葉遣いから心情を説明してみよう。 『枕草子』「雪のいと高う降りたるを」 「中納言参り給ひて」	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	学 2 2 末	登場人物の心情考えながら、群読にチャレンジしてみよう。 『平家物語』「木曾の最期」	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査
	学 3 1 末	漢詩を味わい、鑑賞画を通して文化の違いを考察してみよう。 唐詩「絶句」「律詩」	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を解釈を深めることができる。	○	○	○	授業態度、発問評価 プリント、定期考査

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
地理歴史	歴史総合	1年	普通科	2

## 1. 学習の目標

- ① 世界と日本の歴史への興味・関心を高め、主体的に探究していく態度を身につける。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、地理的条件や日本の歴史とも関連づけながら理解する。
- ③ 資料を適切に選択し、資料に基づいて考察した結果を適切に表現する。
- ④ 現代社会が直面する諸課題について、歴史的観点から考察し、主体的な追究を通して認識を深める。

## 2. 教科書

帝国書院 「明解 歴史総合」

## 3. 副教材

## 4. 授業の進め方

教科書に沿って進めていきます。また副教材を用いて教科書の内容を補充し、問題演習を行いながら進めていきます。

## 5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

まずは1時間の授業を大切にしましょう。できれば授業前に教科書に目を通しておくと、授業中の説明等がわかりやすくなります。授業中は黒板の内容を書き取るだけでなく、口頭での説明でも重要なことはメモしていきましょう。授業中の疑問点はそのままにしておかず、積極的に質問をして早期に解決しましょう。また歴史総合の学習では地図を多用します。簡単でもいいですから、自分で地図が書けるようにしておくと大変役に立ちます。

## 6. 評価方法・考査・テスト・課題等

評価は、中間・期末考査の成績、課題の提出状況、授業中の態度等を総合して行います。

## 7. その他の留意点

歴史の学習は、暗記が中心と思われるかもしれませんが、ただ年代や人名を覚えることだけではありません。授業はもちろんですが、学習を通して歴史的視点に立ったものの見方や考え方を養い、現在の様々なできごとや、自分自身の生き方やあり方を歴史的な視点から見つめなおすことが大切です。歴史は、一見、過去のできごとにすぎないと思われるかもしれませんが、しかしその内容は、他の教科や科目の学習内容と関連したり、世界で現在起こっている様々なできごとと結びついています。授業だけにとらわれることなく、新聞やニュースを見たり聞いたりして、できるだけ興味や関心を広げてみてください。

歴史総合 年間学習計画表

	学習項目（単元）	学習内容	評価の観点			評価方法
			知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	
1 学 期	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料	・私たちの身近にあるものと歴史や世界との結びつきについて	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題評価 ・定期考査
	2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結びつく世界 2章 欧米諸国における近代化 3章 近代化の進展と国民国家形成 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5章 近代化が進む日本と東アジア	・18世紀の日本とアジア、ヨーロッパ ・市民革命、アメリカ独立、フランス革命 ・イタリア、ドイツの独立、帝国主義 ・アジアの植民地化の進展、日本の開国 ・日本の近代化	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題評価 ・定期考査
2 学 期	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応 2章 国際協調と大衆社会の広がり 3章 日本の行方と第二次世界大戦 4章 再出発する世界と日本	・第一次世界大戦 ・ヴェルサイユ体制、アメリカの繁栄、大衆社会 ・満州事変、日中戦争、第二次世界大戦 ・冷戦、東アジアの独立、日本の独立	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題評価 ・定期考査
	4部 グローバル化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本 2章 多極化する世界	・米ソの緊張緩和、第三勢力の台頭 ・アジア・アフリカの発展、アメリカの動揺	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題評価 ・定期考査
3 学 期	4部 グローバル化と私たち 3章 グローバル化の中の世界と日本 これまでの学習を振り返り 現代的な諸課題の形成と展望を考えよう！	・冷戦の終結、中東情勢、グローバル化の影響 ・現代の諸課題の解決方法を考える	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題評価 ・定期考査



教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
数 学	数学Ⅰ・A・Ⅱ	1 年	普 通 科	3 + 2 + 1

### 1 学習の目標

数学Ⅰでは「数と式」「集合と命題」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」の5領域，数学Aでは「場合の数と確率」「図形の性質」「数学と人間の活動」の3領域，数学Ⅱでは「式と証明」の1領域について学習する。それらの領域の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばす。さらには，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

高校数学の基礎ともいえる数学Ⅰ・Aの内容を習得することにより，後の数学Ⅱ・B，数学Ⅲを学ぶ基礎学力をつける。さらには，大学入試に対応できる能力を身につける。

### 2 教科書

NEXT 数学Ⅰ（数研出版）

NEXT 数学A（数研出版）

NEXT 数学Ⅱ（数研出版）

### 3 副教材等

CONNECT 数学Ⅰ + A（数研出版）

CONNECT 数学Ⅱ + B（数研出版）

チャート式 基礎からの数学 数学Ⅰ + A（数研出版）

チャート式 基礎からの数学 数学Ⅱ + B（数研出版）

### 4 授業の進め方

各クラスで一斉授業の形態で行う。

### 5 確かな学力を身につけるためのアドバイス

「予習」→「授業」→「復習」のサイクルで取り組む。予習は教科書の内容に目を通し，疑問や質問事項をもって授業を受けると理解が深まる。復習は，授業で学習した内容の問題演習を必ず毎日行う。具体的には問題集の中から，まず『A問題』をその日のうちに解き，土日や考査前に『B問題』『C問題』『演習問題』まで完成させる習慣をつける。

### 6 評価方法・考査・テスト・課題等

中間考査，期末考査，一斉テスト，および長期休業明けに行われる課題考査の点数を基準とする。また，課題等の提出状況，授業態度等を加味し総合的に判断して評価する。

### 7 その他の留意点

県模試やその他のテストに向けては，指示された問題やその都度与えられた問題集にしっかりと取り組む。

# 数学Ⅰ・A・Ⅱ年間学習計画表

学期	月	テスト計画	科目	単元および学習内容	評価方法			評価方法					
					知	思	主						
一	4	中間考査	I	第1章 数と式	○	○	○	課題提出 小テスト・発表 ノート					
	5			第1節 式の計算									
				第2節 実数									
				第3節 1次不等式 章末問題									
	6			第3章 2次関数					○	○	○	課題提出 小テスト・発表 ノート	
				第1節 2次関数とグラフ									
		第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と 2次不等式 章末問題											
7	期末考査 県模試	A	第2章 集合と命題	○	○	○	考査 課題提出						
			第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数										
二	8	課題考査	I	第2節 確率 章末問題	○	○	○	考査 課題提出 小テスト・発表 ノート テスト					
	9	一斉テスト		第4章 図形と計量									
				第1節 三角比 第2節 三角形への応用 章末問題									
	10	中間考査		A					第2章 図形の性質	○	○	○	考査 課題提出 小テスト・発表 ノート
	11	県模試							第1節 平面図形 第2節 空間図形 章末問題				
12			期末考査	I	第5章 データの分析	○	○	○	考査				
三	1	課題考査	A	第3章 数学と人間の活動	○	○	○	考査 課題提出 小テスト・発表 ノート テスト					
	2	県模試 一斉テスト	II	第1章 式と証明 第1節 式と計算  <課題学習>	○	○	○						
	3	学年末考査						考査					

## ※ 評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事象を数学的に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技能を身に付 けている。基本的な概念、原理・法 則などを体系的に理解し、基礎的な 知識を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思 考の過程を振り返り多面的・発展的に 考えたりすることなどを通して、数学 的な見方や考え方を身に付けている。	考え方に関心を持つとともに、数学の よさを認識し、それらを事象の考察に 活用して数学的な考え方に基づいて 判断しようとする。

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
理科	物理基礎	1年	普通科	2

## 1. 学習の目標

テレビ、携帯電話、自動車など、私たちの生活を楽しく豊かにしてくれる製品の多くに物理の知識が利用されています。物理は自然科学の基礎であり、さまざまな分野に応用されています。身近な現象から不思議を感じ取り、観察・実験を通して理科に対する理解を深め、自然科学（物理）の考え方を学びましょう。そして、私たちの未来を切り拓く、自然科学の理解への第1歩をこの1年間の授業で歩みだして欲しいと思います。

物理基礎は、次の2点を目標に基礎的な内容を学習します。

- ① 物理的な事象・現象について、自然に対する関心や探究心を高めます。
- ② 物理学的に探究する能力と態度を育て、基本的な概念や原理、法則を理解し、科学的な自然観を育てます。

## 2. 教科書

新編 物理基礎（東京書籍）

## 3. 副教材等

ニューアチーブ 物理基礎（東京書籍）

## 4. 授業の進め方

基本的に教科書に沿った内容です。複数の単元にまたがった事象などはまとめて学習をします。授業中の板書をノートに取り、講義の内容をしっかりと理解してください。単元のまとめや思考力を要する内容は演習を行いながら進めていきます。また、授業を欠席することがないようにしてください。

## 5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ・授業で学習するさまざまな物理現象を、身近な事柄に結びつけて考えるとさらに理解が進みます。
- ・ノートは、板書をそのまま写すだけでなく、自分なりに分かりやすく工夫して記入し、疑問に感じた点や追求したい事柄をメモしておくことで学習に広がりや生まれます。
- ・問題集を積極的に解いて学習内容の定着を図ると良いでしょう。予習と復習が基本です。予習をし、今日学習する内容では「何が分かっている、何が分からないのか」ということを準備して授業に臨むことが大切です。また、知識を積み上げていくため、必ず復習をして語句や定義、法則や考え方などは授業があった日に理解をしてください。また、学習の定着のために問題集を利用して、たえず知識の確認をしていくことが大切です。宿題に関しては、指示された内容は必ず期日までに仕上げるのが大切です。

## 6. 評価方法・考査・テスト・課題等

学習活動への参加の仕方や態度、授業で使用するプリントなど課題の提出状況、授業中のノートで評価します。

## 7. その他の留意点

よく考えるためには、よく聞くことも大切です。授業を理解するためには分からないことを放置せず、自分で調べるなり質問することを怠らないようにしましょう。また、問題を解くことで弱点や課題が見つかります。学ぶことはまねることから始まります。正しい考え方をしっかりと自分のものとしてください。そのためにも、新しいことを学んだ後は必ず問題演習を通して知識の整理を行ってください。

物理基礎 年間学習計画表

学期	月	単 元	内 容	評価の観点				評価方法
				関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	観察・ 実験の 技能	知識・ 理解	
1 学期	4	2編 さまざまな物理現象と エネルギー 3章 電気	静電気現象の観察からはじめ、電圧・電流・電気抵抗の間に成り立つオームの法則について学ぶ。また、家庭で使用されている交流電圧について学ぶ。電磁波には電波、赤外線、可視光線、紫外線、X線、 $\gamma$ 線が含まれ、波の性質をもっていることも学ぶ。	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	5							
	6	4章 エネルギーと その利用	エネルギーには、いろいろな種類のエネルギーがあることを学ぶ。また、放射線の利用と安全性、エネルギーの利用と課題についても学ぶ。	○	○	○	○	
	7							
2 学期	9	1編 物体の運動と エネルギー 1章 直線運動の世界	速さ・加速度の概念を学び、等加速度直線運動を理解する。	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	10			2章 力と運動の法則	○	○	○	
	11	3章 力学的エネルギー	仕事についての定義および仕事と力学的エネルギーの関係を学ぶ。	○	○	○	○	
	12							
3 学期	1	2編 さまざまな物理現象と エネルギー 1章 熱	物質の固体、液体、気体の3つの状態および熱運動、熱力学第一法則、熱機関の効率について理解する。	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	2			2章 波	○	○	○	
	3		波の基本的な要素を学習し、横波・縦波の違いを理解する。また、波の重ねあわせの原理についても理解する。さらに、空気を媒質とする縦波である音波について学ぶ。弦の振動や気柱の振動、共振・共鳴についても理解する。	○	○	○	○	

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
理科	生物基礎	1年	普通科	2

## 1. 学習の目標

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、遺伝子・健康・環境などを考えるために必要な科学的素養を高める。
- (2) 観察・実験などを通して、生物や生命現象を探究する方法や姿勢を身につける。
- (3) 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解することで科学的な見方や考え方を養うとともに、生命に対する畏敬の念を育む。

## 2. 教科書

高等学校 生物基礎 (数研出版)

## 3. 副教材等

リードLightノート生物基礎 (数研出版)

## 4. 授業の進め方

教科書の記載内容に沿って、基礎・基本項目を中心に授業を進めます。また、単元によっては、発展的な内容も取り扱います。複数にまたがった事象は、教科書内容をまとめて学習します。また、単元のまとめや思考力を要する内容は、個別またはグループによる演習を行いながら進めていきます。単元の内容により、観察・実験を実施することもあります。

## 5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- (1) 授業で学習する様々な生物現象を、身近な事柄に結びつけて考えましょう。
- (2) 板書事項をそのまま写すだけでなく、自分なりに分かりやすく工夫して記入し、疑問に感じた点や追求したい事柄をメモしておき、学習内容を広げましょう。
- (3) 観察・実験には関心・意欲を持って取り組み、実験の技能を習得しましょう。
- (4) 問題集を自主的・積極的に解いて、学習内容の定着を図りましょう。
- (5) 課題等は、期日を守って提出しましょう。

## 6. 評価方法・考査・テスト・課題等

定期考査の成績を中心に、授業ノートやプリント・問題集等の課題提出状況、学習活動への取り組み具合などを総合的に判断して評価します。

## 7. その他の留意点

よく考えるためには、何よりもよく聞くことが大切です。授業内容をよりよく理解するために、疑問に思ったことを放置せず、教科書の精読はもちろん、指導者や友人に聞くなり、自分で調べるなりして解決を図りましょう。また、演習問題をこなすことで自身の弱点や新たな疑問点が鮮明になります。学ぶことはまねることから始まります。正しい知識と考察力・思考力を、授業や演習を通してしっかりと身につけてください。そのためにも、新しいことを学んだ後は必ず問題演習に取り組み、知識の定着と整理を図るようにしましょう。

生物基礎 年間学習計画表

学期	月	単 元	内 容	評価の観点				評価方法		
				関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	観察・ 実験の 技能	知識・ 理解			
1 学期	4	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性 と共通性	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球上に生息する多様な生物は基本的には共通する構造や仕組みを持っており、共通した祖先から生じた結果であることを学習する。</li> <li>生命現象にはエネルギーが必要であり、生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを学習する。</li> <li>代謝は酵素によって反応が進行し、光合成や呼吸により、ATPが供給されることを学ぶ。</li> <li>遺伝情報はDNAと呼ばれる核酸分子中に含まれていることを学習する。</li> <li>DNAは複製され、体細胞分裂で母細胞から娘細胞に伝達されることを学習する。</li> <li>DNAをもとに、生命現象を支えるタンパク質がつけられることを学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査		
	5	第2節 エネルギーと 代謝		○	○	○	○		授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査	
		第3節 呼吸と光合成		○	○	○	○			授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	6	第2章 遺伝子とのはたらき 第1節 遺伝情報と DNA		○	○	○	○		授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査	
		第2節 遺伝情報の複製 と分配		○	○	○	○			授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
		第3節 遺伝情報の発 現		○	○	○	○			
2 学期	9	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報 伝達と調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>自律神経やホルモンによって体内環境が一定に保たれているしくみを学習する。</li> <li>生体内では体液が循環し体内環境が一定に保たれていることを学習する。</li> <li>脊椎動物に備わる体内環境に侵入してきた微生物などを排除する免疫のしくみについて学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査		
	10	第2節 体内環境の維持 のしくみ		○	○	○	○		授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査	
	11	第3節 免疫のはたら き		○	○	○	○			授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	12									
3 学期	1	第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> <li>植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを学習する。</li> <li>地球上には気候に対応したバイオームが発達することを学習する。</li> <li>生物どうしの関係が生物多様性の維持にかかわっていることを理解する。</li> <li>生態系のバランスを保つことは人間生活にとって重要であることを学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査		
	2	第2節 植生の分布とバ イオーム		○	○	○	○		授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査	
	3	第3節 生態系と生物の 多様性		○	○	○	○			授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	3	第4節 生態系のバラン スと保全		○	○	○	○		授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査	

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
保健体育	体育	1	普通科	2

### 1. 学習の目標

体育の授業では、「体力の向上を図り、心身ともに調和のとれた発達を目指すとともに、自主的な活動を促し、運動の生活化へと発展させる」を目標としています。

誰でも思いきり身体を動かした後では、気分が爽快になるものです。自ら積極的に身体を動かすことで、生涯にわたって運動に親しもうとする習慣を育成し、心身の健康を保持増進するための実践力・体力を養うことを目指して、体育の授業を行います。

運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たすなどの意欲を育てます。

### 2. 授業の内容・進め方

ランニング・準備体操・補強運動のあと、整列をして挨拶。その後、授業の内容に入ります。1年生では、それぞれの種目の基礎基本となる技術・技能の習得と体力の向上を目指します。

### 3. 履修上の注意

- 体育委員が指示し、チャイムとともに体操を始めることができるように、全員が迅速に準備し、協力して授業を進める。
- 高校生として行動・発言し、挨拶をしっかりする。
- 指導者の指示に従い、けがの防止に努める。
- 自分の体操服、運動靴で授業に参加する。（他人の物を無断で使うことのないように）

### 4. 評価方法・考査・テスト・課題等

評価は、授業に対する取り組み（関心・意欲・態度）と、それぞれの種目の基礎基本となる技術・技能，知識・理解を総合的に判断して評価します。

個人の取り組みだけでなく、集団の中で自身の役割を全うし、他者との対話，協力をしながら自身の技能・体力を高めることが重要です。

### 5. その他の留意点

欠課時数が実施した授業時数の1／3を上回る場合は、欠点となります。

## 体育 年間学習計画表

学期	男子		女子		
1	球技選択（1種目） ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール ・サッカー	陸上	球技選択（1種目） ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール ・サッカー	陸上	
		体育理論		体育理論	
2	球技選択（1種目） ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール ・サッカー	卓球/ バドミントン	バドミントン	卓球	球技選択 ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール ・サッカー
3	体づくり		体づくり		

種目	学習内容	評価方法	評価の観点
体育理論	各運動種目の特徴や歴史	受講状況観察 チェックシート	関心・意欲・態度・知識
	ライフスタイルとスポーツについて		
	ルール等の理解		
陸上	短距離	受講状況観察・測定	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	混成		
	リレー		
	体力テスト		
サッカー	キック, ボールコントロール, ヘディング, シュート	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	ルールと審判法		
	ゲーム		
バスケットボール	パス, ドリブル シュート, フェイント	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	3対3 ハーフコート		
	ゲーム		
バレーボール	パス(オーバーパス, アンダーパス), トス, スパイク サーブ(アンダー, フローター等)	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	チームフォーメーションとルール		
	三段攻撃を意識したゲーム		
ソフトボール	フリーバッティング ノック	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	ゲーム		
バドミントン	ラケットワーク サーブ フライト(ドライブ, ハイクリア, ドロップ, ヘアピン, スマッシュ)	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	フライトの打ち分け		
	ダブルスのゲーム		
卓球	サーブ, フォアハンドロング, スマッシュ, バックハンドショート	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	ゲーム		
体づくり	体ほぐしの運動 体力を高める運動	受講状況観察	運動・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断



教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
保健体育	保健	1年	普通科	1

#### 1. 学習の目標

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康問題や健康の考え方が変化してきているなかで、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方に基づいて現代社会の様々な健康課題について理解するとともに、その解決に向けて思考・判断・表現できる能力を育成していきます。

また、個人及び社会生活において起こる様々な事故や災害において、人的要因及び環境要因が関わることを踏まえ、個人の取組に加えて社会的な取組が求められることを理解するとともに、危険の予測やその回避方法考えていける能力を育成していきます。

#### 2. 教科書

現代高等保健体育（大修館書店）

#### 3. 副教材等

図説 現代高等保健（大修館書店）

#### 4. 授業の進め方

各クラス講義形式で行いますが、内容によっては、実習を行います。教室での授業が中心なので、しっかりノートを取ることが大切です。

教科書は1単元について1時間を目安に授業を進めます。

#### 5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

週1回の授業ですので、教科書やノートを忘れないようにしましょう。

授業の前日に教科書に目を通し、学習する内容を予習しておくこと、より理解できます。

進度に余裕がある場合は、普段の学習をより深めるため、課題学習を行います。

#### 6. 評価方法・考査・テスト・課題等

保健の考査は、1・2学期末考査、学年末考査の合計3回実施します。評価は、考査の成績はもちろんですが、授業に取り組む姿勢や実習状況・課題の提出状況などを総合的に判断して評価します。

保健 年間学習計画表

項目名	学習のねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健編 1単元 現代社会と健康				
1	健康の考え方と成り立ち	・我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	私たちの健康のすがた	・健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・免疫、遺伝、生活行動などの主体要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・免疫、遺伝、生活行動などの主体要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
3	生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。	・生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
4	がんの原因と予防	・がんの種類や原因について説明できる。 ・がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。	・がんの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。	
5	がんの治療と回復	・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	・がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
6	運動と健康	・健康と運動の関係について説明できる。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。		
7	食事と健康	・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康的な食事のとり方について説明できる。		
8	休養・睡眠と健康	・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について説明できる。		
9	喫煙と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
10	飲酒と健康	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。	・コカイン、MDMAなどの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
11	薬物乱用と健康	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	・薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
12	精神疾患の特徴	・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	・精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
13	精神疾患の予防	・精神疾患を予防する方法について説明できる。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。	・精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。	
14	精神疾患からの回復	・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 ・精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	・精神疾患の予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
15	現代の感染症	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。	・現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
16	感染症の予防	・感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 ・感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。	・感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。	
17	性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。	・現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
18	健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
19	健康に関する環境づくり	・社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	・国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。 ・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	

保健編 2単元 安全な社会生活					
1	事故の現状と発生要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故の実態と被害の実態について説明できる。</li> <li>・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</li> <li>・安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。</li> <li>・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。</li> <li>・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	安全な社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。</li> <li>・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを旨とする安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。</li> <li>・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	
3	交通における安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。</li> <li>・交通事故における責任を3つに分けて説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	
4	応急手当の意義とその基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応急手当の意義について説明できる。</li> <li>・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</li> <li>・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。</li> <li>・応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
5	日常的な応急手当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。</li> <li>・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。</li> </ul>		
6	心肺蘇生法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。</li> <li>・実際に、心肺蘇生法をおこなうことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりし、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。</li> </ul>		

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
芸術	音楽 I	1年	普通科	2

## 1. 学習の目標

- ・音楽の幅広い活動を通じて音楽を生涯愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的表現と鑑賞の能力を伸ばす。

## 2. 教科書

高校生の音楽 1 (教育芸術社)

## 3. 副教材

- ・The Basic of Music (教育芸術社)
- ・DVD CDなどの視聴覚教材を鑑賞時に使用します。

## 4. 授業の進め方

歌唱、器楽、創作、鑑賞を柱として、様々な音楽に触れあえるように進めていきます。アンサンブルなど、自主的に取り組むことのできる活動も取り入れます。

## 5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ・素直な心で音楽を愛好し、自ら学び、積極的な姿勢で授業に参加しましょう。
- ・いろいろなジャンルの音楽を聴き、感性を磨きましょう。
- ・互いに協力し、息を合わせ、高め合う気持ちを持ちましょう。

## 6. 評価方法・考査・テスト・課題等

定期試験は実施しませんが、授業中に行う実技テストや筆記テスト、発表の成果を評価します。また、それまでの練習の過程、関連したワークシート、感想文も重要です。普段の授業態度や欠席状況も評価の対象になります。

## 7. その他の留意点

- ・皆が協力して積極的に活動し、表現することを楽しみましょう。
- ・楽器や備品を大切に使いましょう。
- ・忘れ物をしないようにしましょう。

音楽Ⅰ 年間学習計画表

学期	月	単 元	学習内容	評価の観点			評価の方法
				知識 技能	思考 判断 表現	主体的 に学習 に取り組む 態度	
1 学期	4	歌 唱	歌唱に対する意欲を育て、伸び伸びと歌うことの楽しさを感じ取る。 校歌、「翼をください」「さびしいカシの木」他	○	○	◎	観察 受講状況の確認 歌唱テスト
		音楽理論	基本的な音楽理論を習得する。 音符の書き方、読み方、音名、音楽用語、等	◎	○	○	ノートの提出 筆記テスト
	5	器 楽	キーボードの奏法を習得する。 アンサンブルの魅力を感じ取る。	◎	○	○	グループ発表
		鑑 賞 音楽史	オペラやミュージカルに関心を持ち、物語と音楽の関わりについて理解する。 その時代の楽曲の特徴や音楽様式について理解を深める。 古代～古典派時代までの音楽	◎		○	感想の提出 筆記テスト
2 学期	9	器 楽	ギター奏法を習得する。	○	○	◎	自己評価表 実技テスト
		音楽理論	コードを理解する。 メジャー、マイナー、セブンスコード	◎	○	○	ノートの提出 筆記テスト
	10	鑑 賞 音楽史	楽曲の特徴や魅力を感じ取るとともに、鑑賞の能力を高め、豊かな感性を養う。 その時代の楽曲の特徴や音楽様式について理解を深める。 ロマン派～近・現代の音楽	◎		○	感想の提出 筆記テスト
	12	歌 唱	歌詞の意味を理解し、曲に応じた歌い方を工夫する。 「この道」、「Heidenroslein」他	○	◎	○	観察 受講状況の確認
3 学期	1	創 作	リズムや旋律の流れ、ハーモニーを考えながら旋律を創作する。	◎	◎	○	創作作品の 提出
	2	鑑 賞 音楽史	日本の伝統音楽に興味・関心を持つ。 諸民族の様々な音楽や言語の特徴に興味・関心を持つ。 日本の伝統音楽（箏曲、三味線音楽、尺八曲） 諸民族の音楽	◎		○	感想の提出 筆記テスト
	3	歌 唱	声によるアンサンブルの楽しさを味わう。	◎	○	○	観察 受講状況の確認

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
芸術	美術 I	1年	普通科	2

### 1. 学習の目標

- ・美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

### 2. 教科書

高校生の美術 1（日本文教出版）

### 3. 副教材等

ビデオなどの視聴覚教材や画集などを使用します。過去の生徒作品も参考作品として提示します。

### 4. 授業の進め方 絵画・彫刻，デザイン，映像メディア表現などの課題作品を各学期に提出します。主に、制作活動を中心に授業をすすめます。主題を決め、その意図をより効果的に表現するために、デッサンや色彩の表し方を工夫し、面や量感、質感などの造形的要素の理解を深め構想を練っていきます。また、課題に関連したワークシート・作品評価表・感想文などを提出してもらいます。

鑑賞については主にビデオや写真などの資料を用います。

### 5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス 素直な心で表現し、主体的に作品に関わる姿勢が大切になります。上手に描いたり作ったりすることも大切ですが、さらに自分が感じたことや思ったことをどのようにイメージして深めるか、いかに個性的に表現するかも重要になります。

### 6. 評価方法・考査・テスト・課題等 定期試験は実施しませんが、作品の提出日を設定し、必ず作品を仕上げ提出してもらいます。作品と、それに関連したワークシート・作品評価表・感想文などを通して作品と自分がどう関わったかを参考に評価します。

授業態度や欠席状況も評価の対象となります。

### 7. その他の留意点 授業を受けるにあたって、次のことを守ってください。チャイムまでに教材・用具の準備をし、着席をする。私語を慎み、集中して制作をする。提出物の期限は守る。

美術 I 年間学習計画表

学期	月	単 元	学習内容	評価の観点			評価の方法
				知識・技能	表現 思考・判断・	主体的に学習 に時組む態度	
1 学期	4	オリエンテーション	小, 中の図工・美術の学習を振り返り, 高校の美術 I のイメージを持ち, 美術の学びの意味や広がりについて考える。		○	○	観察
	5	人類創造	独創的な 16 通りの新たな人類を創造力を駆使しながら創造する。	○	○	○	観察・提出作品・作品評価表
		身近なものを描く	身近なものを見つめ直し, 感じ取ったことや考えたことを基に, 構想を練って表現する。	○	○	○	観察・ワークシート・完成作品
		7	自分の名前をデザインしよう	独創的なアイデアを生かし, 文字デザインを工夫して考える。 色彩が身近な環境で果たす役割を理解し, 美しさを考慮して表現を構想する。 ガッシュの美しさを生かした着彩方法を習得する。	○	○	○
2 学期	9	グループでアニメーション作品をつくろう	グループで話し合いをしながらストーリーを考え, アニメーション作品を制作する。	○	○	○	観察・ワークシート・完成作品・作品発表・作品評価表
	10						
	11						
12	日本美術の鑑賞	日本美術の美意識や自然観などを理解し表現の方法や形体, 題材等に着目し魅力, 広がり, つながりなどを鑑賞する。	○		○	観察・ワークシート	
3 学期	1	鳥獣戯画をアレンジして日本画で描こう	日本画の技術的な特色や日本画画材の特質を理解し, 基本的な技術を身に付ける。漫画の原型ともいわれる鳥獣戯画を, より面白く独創的な作品にできるようにアレンジする。	○	○	○	観察 ワークシート 完成作品・作品評価表
	2	自分の心を抽象彫刻で表現しよう	自分のところを見つめてその形状を想像し, イメージと重ね合わせながら独創的な形を彫り出す。	○	○	○	観察 ワークシート 完成作品・作品評価表
	3						

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
芸術	書道 I	1年	全学科	2単位

1. 学習の目標

- ・小・中学校国語科書写の学習を基礎として、表現及び鑑賞など書道の活動を通して書を愛好する心情を育てる。
- ・日本、中国独特の文化である書道に親しみ、理解を深める。
- ・古典の臨書を通し、幅広い書道の知識、基礎的技能を修得し、主体的な作品創作ができるようにする。

2. 教科書

書道 I (東京書籍)

3. 副教材等

- ・授業内容に沿った「五体字類」などの字典

4. 授業の進め方

なじみのある「漢字」の学習から始める。「楷書」の学習の後、「隸書」の学習をし、「行書」「仮名」の学習をする。漢字と仮名の学習は古典の臨書が中心となる。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

素直な心で表現し、主体的に関わる姿勢が大切である。上手に書くことは大切だが、上達したいという意欲と積極的に授業に参加することが何よりも重要である。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

定期試験は実施しないが、作品の提出日を守り、必ず作品を仕上げて提出すること。授業態度や欠席状況も評価の対象となる。

7. その他の留意点

チャイムまでに教材・用具の準備をし、着席をする。私語を慎み、集中して制作をする。提出物の期限を守る。

半紙、墨などの準備物は不足することがないように余裕をもって準備すること。



書道 I 年間学習計画表 (全学科)

学期	月	単 元	学習内容	評価の観点			評価方法
				知識 技能	思考 判断 表現	主体的 に学習 に取り組む 態度	
1 学期	4	オリエンテーション	書道 I で何を学ぶか、書道の学習内容に関心を持たせ、目的意識を明確にする。内容、評価について理解する。	○			観察
		●書写から書道へ	基本的な用具、用材、執筆法、用筆法などを学習する。	○	○	○	観察 提出作品
	5	●漢字の書 楷書の学習	・臨書 「九成宮禮泉銘」「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」「自書告身」「牛欄造像記」の臨書を通し楷書の幅広い表現技法を習得する。	○	○	○	観察 提出作品
	6						
	7	●篆刻	・姓名印の創作を通して、篆刻の手順を理解する。	○	○	○	観察 提出作品
		創作	・創作 (倣書) 学習した楷書か隷書の技法を使った作品の創作	○	○	○	観察 提出作品 自己評価表
2 学期	9	行書の学習	・臨書 「蘭亭序」の全臨をすることにより、行書の特徴を理解し、表現技法を習得する。	○	○	○	観察 提出作品 自己評価表
	10						
	11	隷書の学習	・臨書 「曹全碑」の臨書を通し隷書の基本的技法を習得する。	○	○	○	観察 提出作品
	12	創作	・創作 楷書、行書、隷書による条副作品を創作する。	○	○	○	観察 提出作品 自己評価表
3 学期	1	●仮名の書 仮名の学習	ひらがな、変体仮名、連綿の学習を通して仮名の基本的技法を習得する。	○	○	○	観察 提出作品 自己評価表
	2		・臨書 高野切第一種 高野切第三種 ・創作 散らし書きを使った作品制作				
	3	●漢字仮名交じりの 書の学習	・漢字と仮名の調和を図りながら、校歌を作品にする。	○	○	○	観察 提出作品 自己評価表



教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
英語	英語コミュニケーション I	1年	普通科	3

#### 1. 学習の目標

- ・聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り・発表）、書くことにおける言語活動に積極的に取り組み、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり、伝え合ったりする英語のコミュニケーション能力を養う。
- ・英語のコミュニケーション能力の土台となる語彙・文法・表現を身に付ける。

#### 2. 教科書

BLUE MARBLE English Communication I（数研出版）

#### 3. 副教材等

BLUE MARBLE English Communication I ナビゲーションノート（数研出版）

BLUE MARBLE English Communication I ワークブック（数研出版）

#### 4. 授業の進め方

授業は予習をしていることを前提に進める。予習は、新出単語を辞書で調べる、ワークシートやナビゲーションブックに取り組む、問題を前もって解くなど、まずは自力で取り組む。授業では、予習でわからなかったこと、疑問に思ったことを解消し、英語が「分かる」だけでなく「使える」レベルになるよう活動に取り組む。家庭ではその日の授業の内容を復習して覚えたり、音読練習をしたりして、さらに学習内容の理解と定着に努める。

#### 5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

授業は予習を前提として進めるので、事前に本文を読み、知らない語句を辞書で調べておく。授業中は積極的に声を出し、音読の練習やペアワーク等をする。言語活動に積極的に取り組み、多くの英語を使う。どれだけ多くの英語に触れたかで、1年後の英語力は大きく変わるものである。日々、しっかり取り組むことが大切である。

#### 6. 評価方法・考査・テスト・課題等

評価は、言語活動に取り組む態度、パフォーマンステスト、ワークシートや課題への取り組み、小テストや考査の成績等を総合的に評価する。

#### 7. その他の留意点

辞書を必ず用意する。

予習を行ってから授業に臨む。

課題に取り組む際は自分でよく考え、分からないところを少しでも分かるように取り組む。提出期限を守る。

英語コミュニケーションⅠ 年間学習計画表

月	進度 (項目)	学習内容	評価方法	評価の観点
4	Lesson 1 Friendships in the Digital Age	<p>&lt;題材内容&gt; ・デジタル時代における友だち作りについて聞き／読み, 概要や要点を把握する。 ・本文の内容 (デジタル時代における友達付き合い) について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書く。</p> <p>&lt;文法事項&gt; SV, SVC, SVO, SVOO, SVOC, There is [are]の表現</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
5	Lesson 2 Expos: Past, Present, and Future	<p>&lt;題材内容&gt; ・万博における日本の関わりと, 未来の万博の役割について聞き／読み, 概要や要点を把握する。 ・本文の内容 (万博とその開催意義) について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書く。</p> <p>&lt;文法事項&gt; 現在時制, 過去時制, 未来を表す表現, 完了形</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
6	Lesson 3 The Fascinating World of a Professional Storyteller	<p>&lt;題材内容&gt; ・講談とそれに対する旭堂南春の思いについて聞き／読み, 概要や要点を把握する。 ・本文の内容 (講談と旭堂南春) について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書く。</p> <p>&lt;文法事項&gt; 助動詞を含む受動態, used to do</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
7	Lesson 4 Changing Behavior in Unique Ways	<p>&lt;題材内容&gt; ・仕掛けとソーシャルデザインについて聞き／読み, 概要や要点を把握する。 ・本文の内容 (仕掛けとソーシャルデザイン) について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書く。</p> <p>&lt;文法事項&gt; 不定詞・動名詞・分詞, seem to do, 使役動詞+O+原形不定詞, 動詞+O+to-不定詞</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
	Lesson 5 A Journey to Peace	<p>&lt;題材内容&gt; ・ルワンダ内戦とマリールイズについて聞き／読み, 概要や要点を把握する。 ・本文の内容 (ルワンダ内戦とマリールイズ) について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書く</p> <p>&lt;文法事項&gt; 詞を伴うSVC・SVOCの表現, SVO1O2でO2がif節となる表現</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
9	Lesson 6 Humans Evolve with Measurements	<p>&lt;題材内容&gt; ・単位の歴史について聞き／読み, 概要や要点を把握する。 ・本文の内容 (単位の歴史) について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書く。</p> <p>&lt;文法事項&gt; 関係代名詞の継続用法, what</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
	Lesson 7 Bio-logging: Discovering Animals' Secrets	<p>&lt;題材内容&gt; ・パイオロギング研究について聞き／読み, 概要や要点を把握する。 ・本文の内容 (パイオロギング研究) について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書く。</p> <p>&lt;文法事項&gt; 関係副詞 (when / where / why / how)</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
10	Lesson 8 What to Do with Too Many Tourists	<p>&lt;題材内容&gt; ・オーバーツーリズムについて聞き／読み, 概要や要点を把握する。 ・本文の内容 (オーバーツーリズム) について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書く。</p> <p>&lt;文法事項&gt; 仮定法</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
	Lesson 9 Surviving in the Information Age	<p>&lt;題材内容&gt; ・正しい情報の見極め方について聞き／読み, 概要や要点を把握する。 ・本文の内容 (正しい情報の見極め方) について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書く。</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
11	Lesson 10 The Spirit of Zen: Less Is More	<p>&lt;題材内容&gt; ・禅の精神と世界への影響について聞き／読み, 概要や要点を把握する。 ・本文の内容 (禅の精神と世界への影響) について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書く。</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
12				

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
英語	英語コミュニケーションⅡ	1年	普通科	1

1. 学習の目標

- ・聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り・発表）、書くことにおける言語活動に積極的に取り組み、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり、伝え合ったりする英語のコミュニケーション能力を養う。
- ・英語のコミュニケーション能力の土台となる語彙・文法・表現を身に付ける。

2. 教科書

Revised ELEMENT English Communication II（啓林館）

3. 副教材等

なし

4. 授業の進め方

授業は予習をしていることを前提に進める。予習は、新出単語を辞書で調べる、ワークシートやナビゲーションブックに取り組む、問題を前もって解くなど、まずは自力で取り組む。授業では、予習でわからなかったこと、疑問に思ったことを解消し、英語が「分かる」だけでなく「使える」レベルになるよう活動に取り組む。家庭ではその日の授業の内容を復習して覚えたり、音読練習をしたりして、さらに学習内容の理解と定着に努める。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

授業は予習を前提として進めるので、事前に本文を読み、知らない語句を辞書で調べておく。授業中は積極的に声を出し、音読の練習やペアワーク等をする。言語活動に積極的に取り組み、多くの英語を使う。どれだけ多くの英語に触れたかで、1年後の英語力は大きく変わるものである。日々、しっかり取り組むことが大切である。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

評価は、言語活動に取り組む態度、パフォーマンステスト、ワークシートや課題への取り組み、小テストや考査の成績等を総合的に評価する。

7. その他の留意点

辞書を必ず用意する。

予習を行ってから授業に臨む。

課題に取り組む際は自分でよく考え、分からないところを少しでも分かるように取り組む。提出期限を守る。

英語コミュニケーションⅡ 年間学習計画表

月	進度 (項目)	学習内容	評価方法	評価の観点
1	Lesson 1 Beyond Words	<p>&lt;題材内容&gt; ・非音声的言語の重要性について聞き／読み，概要や要点を把握する。 ・本文の内容（非音声的言語の重要性）について，学習した語句や文法事項を用いて，自分の意見を話す／書く。</p> <p>&lt;文法事項&gt; 助動詞＋完了形，受動態の動名詞，付帯状況を表す with A B</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・ 評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
2	Lesson 2 Stay Hungry, Stay Foolish	<p>&lt;題材内容&gt; ・スティーブ・ジョブズのメッセージについて聞き／読み，概要や要点を把握する。 ・本文の内容（スティーブ・ジョブズのメッセージ）について，学習した語句や文法事項を用いて，自分の意見を話す／書く。</p> <p>&lt;文法事項&gt; 複合関係詞，S+V(be 動詞)+C(that 節)，be 動詞＋to 不定詞</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・ 評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>
3	Lesson 3 A Teenager To Change the World	<p>&lt;題材内容&gt; ・1人のティーンエイジャーが世界を変えたことについて聞き／読み，概要や要点を把握する。 ・本文の内容（1人のティーンエイジャーが世界を変えたこと）について，学習した語句や文法事項を用いて，自分の意見を話す／書く。</p> <p>&lt;文法事項&gt; 動名詞の意味上の主語，疑問詞＋do you think+(S)+V?，未来進行形</p>	<p>言語活動に取り組む態度等の観察 パフォーマンステスト ワークシートや課題 小テスト・定期考査・ 評価問題</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
英語	論理・表現 I	1年	普通科	2

#### 1. 学習の目標

- ・「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動に積極的に取り組み、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を養う。
- ・論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。  
具体的な言語活動は次の通り。  
ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。  
イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。  
ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。

#### 2. 教科書

Vision Quest English Logic and Expression I Advanced (啓林館)

#### 3. 副教材等

ワークブック ( Vision Quest English 論理・表現 I Advanced ) (啓林館)  
3rd Edition Vision Quest 総合英語 (啓林館)

#### 4. 授業の進め方

Model Conversation を聞いたり・読んだりすることで、英語の表現や文法事項の機能を理解したり、英語の発音に慣れ親しんだりする。次に Try it out の言語活動を通して言語形式を理解する。最後に Use it において単元で学習した言語形式を用いながら論理的に自己表現を行うことで活用できる英語力を身につけると共に、読み手や目的に応じて簡潔に文章を書けるようにする。

#### 5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

授業は予習を前提として進めるので、事前に本文を読み、知らない語句を辞書で調べておく。文法事項については、副教材の総合英語を読む。授業中は積極的に言語活動に参加し、多くの英語を使う。ワークブックの問題に繰り返し取り組む。

#### 6. 評価方法・考査・テスト・課題等

評価は、言語活動に取り組む態度、パフォーマンステスト、ワークシートや課題への取り組み、小テストや考査の成績等を総合的に評価する。

#### 7. その他の留意点

辞書を必ず用意する。

予習を行ってから授業に臨む。

課題に取り組む際は自分でよく考え、分からないところを少しでも分かるように取り組む。提出期限を守る。

論理・表現 I 年間学習計画表

月	課	学習内容	評価方法	評価の観点
4	Lesson 1 I want to introduce my new friend.	<b>話題</b> 紹介 <b>文法</b> 文の種類 <b>機能</b> 応答する/理由を述べる <b>表現</b> 話す[発表]: 自分やパートナーのクラブ活動を紹介する。 <b>書く</b> : 学校のルールや好きな科目について、理由や具体例などを加えて説明する。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
	ASSISTANT 1 Connecting Words	文と文のつながりを意識して、まとまった文章を書いたり、伝えたりする。	言語活動に取り組む態度 小テスト・定期テスト	同上
5	Lesson 2 How about joining our group?	<b>話題</b> 学校生活 <b>文法</b> 文型と動詞 <b>機能</b> 賛成・反対する/聞き直す <b>表現</b> 話す[やり取り]: 文化祭に行く予定について話し合う。 <b>書く</b> : 日常生活や自分の部屋について、具体例や情報を挙げて説明する。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	同上
	Lesson 3 I'm planning a day trip this weekend.	<b>話題</b> 旅行・観光 <b>文法</b> 時制 <b>機能</b> 激励する・励ます/計画する・予定する <b>表現</b> 話す[発表]: 旅行の経験について詳細に話す。 <b>書く</b> : 週末にしたことや来月の予定について、具体的に詳細を書いて伝える。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	同上
6	ASSISTANT 2 Build Up Conversation	会話の構造を理解し、論理的な展開やスムーズな進行を意識して、会話を組み立てる。	言語活動に取り組む態度 小テスト・定期テスト	同上
	Lesson 4 Have you ever tried it before?	<b>話題</b> 趣味・関心 <b>文法</b> 完了形 <b>機能</b> 経験を尋ねる/初めての経験を述べる <b>表現</b> 話す[やり取り]: スポーツや音楽の経験について伝え合う。 <b>書く</b> : 訪れたことのある場所や初めて経験したことについて、考えや気持ち、具体例を挙げて伝える。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	同上
7	Lesson 5 What do you want to do after school?	<b>話題</b> 将来・進路 <b>文法</b> 助動詞 <b>機能</b> 許可を求める・依頼する/義務・必要を表す/回想する・自省する <b>表現</b> 話す[やり取り]: 将来の夢について伝え合う。 <b>書く</b> : 家のルールや子供の頃のこと、またいつかやりたいことについて、自分の主張に情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠を加えて書いて伝える。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	同上
	ASSISTANT 3 Paragraph	つながりの言葉やパラグラフの構成(主題文、指示文、結論文)について学び、1つの主題についてパラグラフを書く。	言語活動に取り組む態度 小テスト・定期テスト	同上
9	Lesson 6 Did you hear about the new shop?	<b>話題</b> 日常生活 <b>文法</b> 受動態 <b>機能</b> 原因・影響を表す/喜び・驚きを表す <b>表現</b> 話す[やり取り]: 自身の買い物について詳細に伝える。 <b>書く</b> : 好きな小説や最近驚いたことについて、情報や考え、気持ちなどを適切に書いて伝える。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	同上



10	Lesson 7 I'm happy to have you with us.	<b>話題</b> 交流・交際 <b>文法</b> 不定詞 <b>機能</b> 感謝する／謝罪する／弁解する <b>表現</b> 話す[やり取り]:受け取った贈り物について詳細に伝える。 <b>書く</b> :自分の夢,高校生にとって一番大切なこと,日常生活で何かしないように努力していることについて,自分の意見や主張などを適切な理由や根拠と共に書いて伝える。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
	ASSISTANT 4 Speech	スピーチを行う際の手順を学び,与えられたテーマについて即興で発表する。	言語活動に取り組む態度 小テスト・定期テスト	同上
11	Lesson 8 What sport do you like playing?	<b>話題</b> スポーツ・健康 <b>文法</b> 動名詞 <b>機能</b> 誘う・申し出る／推薦する <b>表現</b> 話す[発表]:スポーツをすることの利点について発表する。 <b>書く</b> :好きなスポーツや活動,楽しみにしていることについて,情報や具体的を加えて詳細に書いて説明する。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	同上
	Lesson 9 Digital media has come a long way.	<b>話題</b> メディア・コミュニケーション <b>文法</b> 分詞 <b>機能</b> 描写する／判断の根拠を述べる <b>表現</b> 話す[発表]:自分自身や自身の性格について発表する。 <b>書く</b> :家族や友だちと撮った写真や日本人の特徴について,具体例や詳細な情報を加えて文章を書いて伝える。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	同上
12	ASSISTANT 5 Presentation	プレゼンテーションの概要と流れを理解し,原稿と提示する資料を準備する。また,事前に十分な練習を行い,具体的な内容を用いてわかりやすく説明する。	言語活動に取り組む態度 小テスト・定期テスト	同上
	ASSISTANT 6 Debate	ディベートの概要や流れ,判定基準を学び,それぞれの立場で説得力のある意見を述べる。	言語活動に取り組む態度 小テスト・定期テスト	同上
1	Lesson 10 That's why I decided to go back.	<b>話題</b> 文化・異文化理解 <b>文法</b> 関係詞 <b>機能</b> 定義する／言い換える／経緯を説明する <b>表現</b> 話す[発表]:日本の文化や人たちについて紹介する。 <b>書く</b> :友だちや家族の紹介やあなたが今必要としていること,住みたい場所について,論理の展開を工夫しながら詳細に伝えたり,意見や主張の適切な理由や根拠とともに文章を書いて伝える。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	同上
	Lesson 11 Which do you prefer, cheaper beans or expensive ones?	<b>話題</b> 国際問題 <b>文法</b> 比較 <b>機能</b> 提案する／称賛する <b>表現</b> 話す[やり取り]:国際問題について自分の考えを伝え合う。 <b>書く</b> :本と映画どちらに興味があるか,また最も幸せを感じる時について,自分の主張の理由や根拠を加えて,詳しく説明する。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	同上
2	Lesson 12 If I were you, I'd see it as a positive.	<b>話題</b> 社会問題 <b>文法</b> 仮定法 <b>機能</b> 助言を求める・助言する／願望を表す <b>表現</b> 話す[発表]:日本の社会問題について自分の意見を発表する。 <b>書く</b> :タイムマシンがあったら過去と未来どちらに行きたいか,また自分や家族の願望について,意見や主張の理由や根拠を具体的に示して,伝える。	言語活動に取り組む態度 パフォーマンステスト 課題等の提出 小テスト・定期テスト	同上

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
家庭	家庭基礎	1年	普通科	2

## 1. 学習の目標

- ① 人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と技能を身につけます。
- ② 家庭や地域・社会における生活の中から課題を見だし、その解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけます。
- ③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につけます。

## 2. 教科書

図説 家庭基礎 (実教出版)

## 3. 副教材等

クッキングブック (学習研究社)

## 4. 授業の進め方

実技・実習が大切な教科なので、年間を通して各分野毎に実験・実習を取り入れた授業を行います。実験・実習・演習の後には、レポート(記録シート)・作品等を提出します。

## 5. 家庭科を学習するにあたって

- ① 家庭科は生活の仕方を学ぶ教科です。学習したことをこれからの自分の生活にどのように生かしていったらよいか考えて、毎日の生活の中で実践していきましょう。
- ② ニュースや新聞などに目を通し、家族や家庭を取り巻く社会情勢の変化に気づきましょう。
- ③ 授業プリント・実習レポートや作品等は提出期限を守り確実に提出しましょう。

## 6. 評価方法・考査・テスト・課題等

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。</li> <li>・家庭や地域生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・小テスト</li> <li>・各分野での実験・実習における技能</li> <li>・提出物、作品等のできばえ</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域および社会における生活の中から問題を見つけ、課題を設定できるか。</li> <li>・課題の解決策を考え、実践したことを評価・改善し、考えたことを根拠に基づいて論理的に表現する力を身につけているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考査の論述問題</li> <li>・ワークシート及びレポート</li> <li>・授業の中で使用するプリント</li> <li>・授業中の発表の内容や仕方</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域および社会の一員としてさまざまな人々と協働し課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして生活を工夫し創造し実践しようとしているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>・ワークシート及びレポート</li> <li>・授業の中で使用するプリント</li> <li>・実習の準備物</li> </ul>

## 家庭基礎 年間学習計画表

学期	月	学習項目	学習内容および学習目標	評価の観点			評価方法
				知識技術	思考判断表現	主体的態度	
1 学期	4	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	家庭科で何を学びどのような学習活動をしていくかを知る。 ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動の意義や実施方法について理解する。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況
		自分らしい生き方と家族	青年期の課題を生涯発達の視点から理解する。 男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性について考える。 家庭や地域の生活を創造するために、意志決定に基づき、責任を持って行動することが重要であることを認識する。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況 定期考査
	5 6 7	高齢者とかかわる	高齢社会の現状と課題を理解する。 高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。 身近な高齢者との触れ合いの機会を探す。 高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況 定期考査
		子どもとかかわる	乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解する。 子どもを生み育てることの意義を考える。 子どもの発達のために親や家族および地域や社会の果たす役割について認識する。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況 定期考査
		社会とかかわる	一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。 多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解し、ユニバーサルデザインを具体的に考える。 社会保障制度の理念と内容を学ぶ。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況 定期考査
	5 6 7	衣生活をつくる	被服のさまざまな役割を整理する。 被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い表示・サイズ表示などの意味が分かる。 汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 布を使った生活の工夫を知る。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況 定期考査 被服製作作品提出
2 学期	9	ホームプロジェクト	夏休みのホームプロジェクト課題を発表する。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況
		住生活をつくる	住居の機能や間取りの基礎知識を学ぶ。 ライフステージに合った住居を考える。 住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を学ぶ。 バリアフリーの考え方を理解し、身につける。 住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。 色が住空間に与える影響を知り、生活に取り入れる方法を考える。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況 定期考査
	10 11 12	食生活をつくる	日常の食生活を振り返る。 日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 日本の伝統的な食文化について理解するとともに、食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況 定期考査
3 学期	1	ホームプロジェクト	冬休みのホームプロジェクト課題を発表する。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況
	1	経済的に自立する	高校卒業後の経済的自立と職業に関して、主体的に考える必要性を理解する。 生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況
	2 3	消費行動を考える	消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解する。 キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 消費者基本法を通して、消費者には権利と責任があることを理解する。 大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。	○	○	○	ワークシートの記入状況 授業態度 課題提出状況

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
総合的な探究の時間	IPT (Intellectual Power Training)	1年	普通科	1

## 1. 学習の目標

- 「自分の考えを適切に伝えられる力・主張できる力」の育成
  - ・自分の考えをまとめ、相手に的確に伝える能力を高める。
  - ・根拠を示し、論理的に自分の意見を書く力をつける。
- 「他者を尊重し協力し合って、物事に取り組む力」の育成
  - ・自己や他者についての理解を深め、認め合う心を養う。
  - ・他者の様々な意見について、意識を持って傾聴する力をつける。
- 「課題を探究し、解決に向けたプロセスを考える力」の育成
  - ・ディベートや新聞記事探究をとおして時事への関心を持ち、広い視野を身につける。
- 「自ら考えて行動する力・主体性・自立心」の育成
  - ・適性検査や職業・進路講話等をとおして、自身の進路について考える。
  - ・PortfolioをとおしたPDCAサイクルの定着と、自己を俯瞰し、次へ繋げる力を育む。

## 2. 教科書・副教材等

教科書はありません。Google Classroom およびテキスト教材・プリント資料等を適宜使用します。

## 3. 授業の進め方

金曜日の7限目に実施します。

年間計画に沿って、担任および副担任の連携指導により展開されます。

## 4. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ・活動の目標を理解し、積極的に取り組みましょう。〔主体性〕
- ・日頃から新聞に目を通し、また、テレビやラジオを見聞きしながら社会情勢やその変化に関心を持ち、また、関心のあることはWeb検索を積極的に活用しましょう。〔情報の収集〕
- ・自分の考えを相手にわかりやすく「文として」表現するように努めましょう。〔表現力〕
- ・周りの人の意見をしっかりと聞くとともに、積極的に自分の意見を述べるように心掛けましょう。〔傾聴と主張〕
- ・グループで活動する際には、メンバーと協力しあいましょう。〔協働〕

## 5. 評価方法・考査・テスト・課題等

テストは実施しません。通知票にも成績は出ませんが、それだけが評価ではありません。IPTは主に学期末の自己評価によって行われ、Google Classroom上の「ポートフォリオ」や「活動報告書」、または「成果物(レポート)」として残すことになります。これらは、みなさん自身の成長の軌跡となるものです。自らを高めるために、活動に真剣に臨むようにしましょう。

## I P T 年間学習計画表

学期	月	単 元	主 な 内 容
一 学 期	4月	オリエンテーション 適性を考える	IPT活動についてのガイダンス 志向性のチェック
	5月	言語活動	表現トレーニング（読解力・論理的思考力）
	6月	職業進路探究 言語活動	OB（教育実習生）の話を学ぶ 表現トレーニング（発想力・文章作成）
	7月	職業進路探究 適性を知る 活動を振り返る	先輩に聞講座 R-CAP適性検査 一学期活動報告書の作成（Google Classroom）
二 学 期	9月	進路研究	進路選択（文理選択について：講演会・説明会）
	10月	パネルディベート	パネルディベート①〔ガイダンス・立場決定〕 パネルディベート②〔資料読み込み・立論作成〕
	11月	パネルディベート	パネルディベート③〔資料読み込み・立論作成〕 パネルディベート④〔質問・返答作成〕 パネルディベート⑤〔質問・返答作成〕 パネルディベート⑥〔最終弁論作成〕 パネルディベート⑦〔最終弁論作成・リハーサル〕 パネルディベート⑧〔パネルディベート大会〕
	12月	活動を振り返る	二学期活動報告書の作成（Google Classroom）
三 学 期	1月	社会情勢を知る	NIE（Newspaper in Education）探究活動
	2月	意見をまとめる	NIE探究レポート作成
	3月	意見を発信する 年間の振り返り	NIE探究レポート発表 年間活動報告書の作成（Google Classroom）